

令和6年産

# 気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和6年7月11日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- 生育ステージを確認し、適期に追肥をしましょう。
- 用水不足時や高温が続くときは、飽水管理を実施しましょう。

## 1 気象の概況

6月2半旬以降、高温傾向で推移しており、日照時間も7月2半旬を除き概ね平年を上回っています。梅雨入り（6月23日）以降、断続的に降雨がありました。

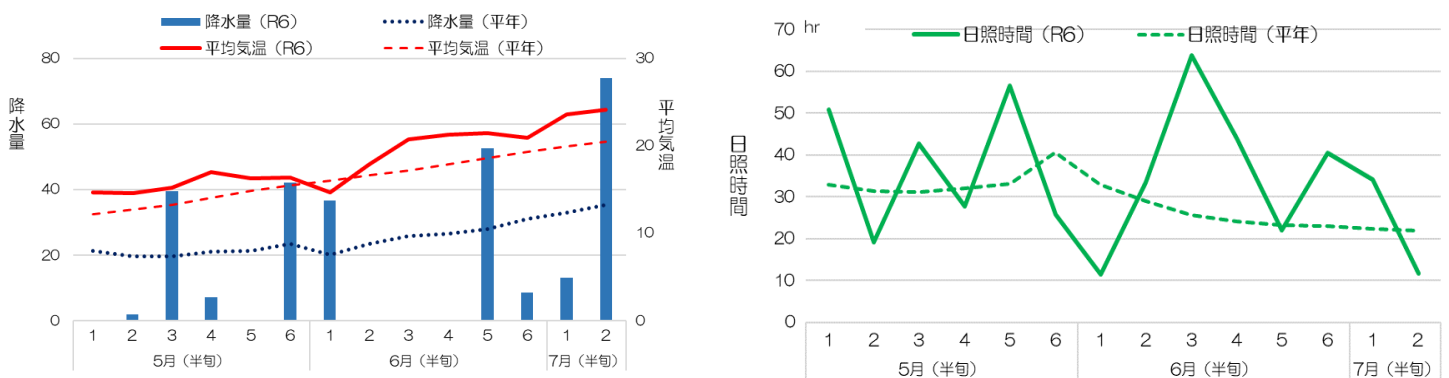


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～7月10日）

## 2 水稻生育調査ほの生育概況

ひとめぼれの草丈は57.3cmと、生育量の目安の56～59cmの範囲です。茎数は550.6本/㎡と、目安の470～530本/㎡を上回っています。葉色は34.1と、目安の38～40を下回っており、淡くなっています。幼穂長は1.0mmで、幼穂形成始期に入りました。

表1 水稻生育調査結果（7月10日現在）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R6	5/20	57.3	550.6	34.1	1.0
【参考】 ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R5	5/14	56.4	655.7	35.1	4.1

※生育調査ほの見直しにより、今年度から管内の調査ほは1か所となり、また、ほ場（担当農家）を変更しています。このため、前年比・差及び平年比・差はありません。



生育の状況

### 3 出穂予想

気仙沼管内の移植時期（田植日）別の幼穂形成期、減数分裂期、出穂期は表2のとおりです。ただし、今後の天候によって生育ステージが変動することもあります。ほ場で幼穂長を確認し、表3により生育ステージを把握することが重要です。

表2 生育ステージの予測（令和6年7月2日現在）

移植時期 (田植え)	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
5/6	7/5	7/15	8/5
5/13	7/10	7/20	8/9
5/23	7/14	7/24	8/12

表3 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ		出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期		25日	1~2	-
減数分裂期	始期	15日	30~40	-10
	盛期	12日	80~100	±0

注1) 生育予測に用いるデータ：①日別平均気温（各アメダス地点）、②移植時期、③移植時期の葉数（県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」平均3.1葉）。  
2) アメダスデータは、7月2日までの令和6年度実測値を使用。7月3日以降は、アメダス平年値（1991年～2020年、30か年）を使用。  
3) 対象品種は「ひとめぼれ」。

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

### 4 今後の栽培管理

#### (1) 水管理

- ・気仙沼管内の田植盛期は5月13日のため、幼穂形成期を迎えているほ場が多いと思われます。中干しは終了しましょう。
- ・中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めるので、最初は走り水とし、その後、間断かん水又は飽水管理（田面の足跡に水がなくなる頃水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）としましょう。
- ・飽水管理は、根の健全化と茎の充実に効果があります。高温対策として有効です。

#### 農業用水不足時における今後の水管理について

- 出穂後30日頃までは、限られた用水で「<sup>ほうすいかんり</sup>飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。
- 「飽水管理」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。

#### <sup>ほうすいかんり</sup>飽水管理のメリット

- ◎限られた用水で実施可能
- ◎根の活力維持
- ◎地温の上昇抑制  
稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が籾に転流しやすくなる。

白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます

#### 高温時の湛水管理のデメリット

出穂期以降の夜温が高いと、「湛水管理」では夜間の水温がなかなか下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまう。

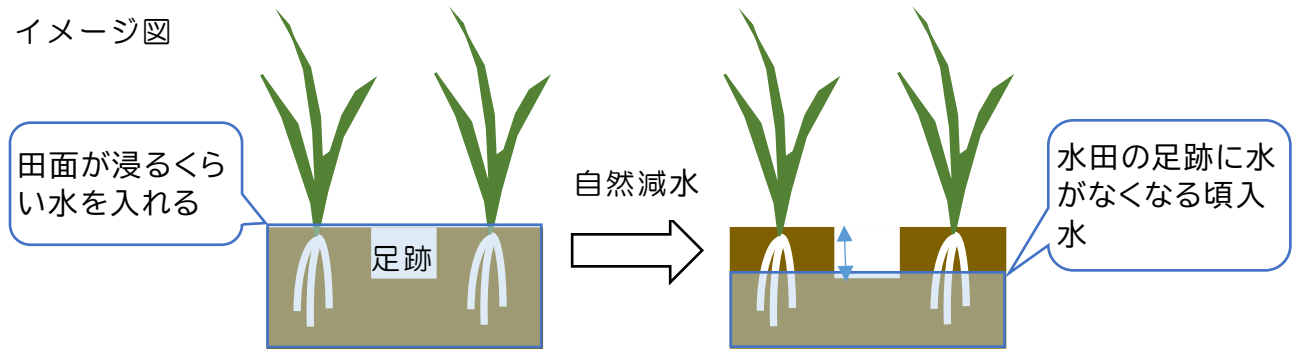
⇒白未熟粒の発生を助長

### (参考) 飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ② 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。  
(目安は3～5日おき)

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



### (2) 追肥

登熟期の光合成能力の向上、出穂後の高温による白未熟粒の発生の軽減、玄米品質・食味の向上のため、ほ場ごとに葉色や生育ステージ（幼穂長）を確認して追肥を実施しましょう。

表4 各品種における追肥の時期と量の目安

品 種	窒素施用量（成分量kg/10a）	
	幼穂形成始期 （出穂25日～20日前）	減数分裂期 （出穂15～10日前）
ひとめぼれ	1	1
まなむすめ	2	
ササニシキ	—	1.0～1.5
	—	2
だて正夢	1 （茎数が少ない場合）	1 （幼穂形成始期に1kg を追肥した場合）
みやこがねもち		1

### (3) 病虫害防除

#### 【いもち病】

- ・梅雨の時期に入っており、葉いもち感染好適日を判定するシステム「BLASTAM」によると感染に好適な条件が出現しています。ほ場を見回り、発生を確認した場合は、茎葉散布剤で直ちに防除しましょう。
- ・穂いもち防除には、予防効果のある水面施用剤（粒剤、パック剤）を、出穂 10 日程度前までに散布しましょう。

#### 【紋枯病】

- ・県病虫害防除所の発生予報（7月8日発行）によると、発生量は「やや多い」となっています。
- ・出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。
- ・茎葉散布剤による散布適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は防除しましょう。
- ・株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

#### 【稲こうじ病】

- ・前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、出穂 20～10 日前に防除を実施しましょう。

### 【斑点米カメムシ類】

- ・斑点米カメムシ類の水田内への侵入を防ぐため、水田周辺の草刈りを7月中旬までに実施しましょう。
- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに実施しましょう。

## 5 金のいぶき

### (1) 調査ほでの生育状況

茎数は、生育量の目安(570~620本/m<sup>2</sup>)を上回っています。葉色は38.8で、前回調査(39.4)から大きな低下はみられていません。幼穂は確認されませんでした。

表5 金のいぶき普及展示ほの生育調査結果(7月10日現在)

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (GM値)
金のいぶき 気仙沼市本吉町	R6	6/1	52.3	649.4	38.8
	前年比・差	+12	89%	95%	+2.8
	平年比・差	+8	86%	107%	+6.8

注) 平年値は令和3年から令和5年までの3か年の平均値

### (2) 今後の栽培管理

- ・減数分裂期の葉色値30~32程度に維持するため、幼穂形成期(幼穂長1~2mm)に窒素成分で1kg/10a、減数分裂期(幼穂長30mm~120mm)に窒素成分で1kg/10a程度追肥しましょう。
- ・いもち病に弱いので、予防防除に努めるとともに、発生を確認したらすぐに茎葉処理剤で防除しましょう。

## 6 乾田直播栽培

### (1) 調査ほでの生育状況

草丈・茎数とも前年を上回り、生育が回復してきました。

表6 水稻生育調査結果(7月10日現在)

品 種 地区名	年	播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (GM値)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R6	3月25日	57.2	50.5	335.5	35.8
	前年比・差	+10	+20.8	110%	144%	+1.5

### (2) 今後の栽培管理

前述の「4 今後の栽培管理」を参照。

## 7 東北地方の1か月予報(仙台管区气象台7月11日発表)

### ○予報のポイント

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防しましょう!!

次回の稲作情報の発行は、令和6年7月22日を予定しています。